

## おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)

ウイルスの感染によるおたふくかぜは、正式名を流行性耳下腺炎といい、耳の下にある耳下腺と、顎の下にある顎下腺に痛みと腫れ(はれ)が出る病気です。1年を通じて小さな流行がみられます。

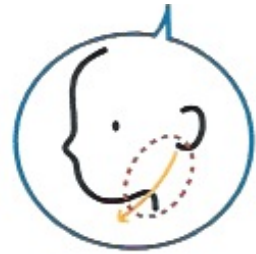
潜伏期間は2~3週間で、4~10歳くらいでかかることが多いですが、感染力が強くないため、兄弟がかかっても移らないこともあります。また、感染しても症状がでない不顕性感染が、30~40%にみられます。

学校などは、「耳下腺などの腫れがみられてから5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで」お休みです。

### 主な症状と治療

片側、または両側の耳下腺の痛みと腫れから始まり、熱はあまり高くないことが多いです。耳の付け根から顎の骨にそった感じで腫れ、さわったり、ものを食べるとき(特に酸っぱいもの)に痛みを訴えます。

3日目くらいが最も腫れが強く、片側が腫れてから反対側が腫れることが多いです。7日くらいで腫れがひきます。合併症として髄膜炎が2~3%に見られますが重症化することはまれです。その他に難聴や、成人では睪炎・睪丸炎がみられることがあります。高熱が続いたり、頭痛・吐き気が強いときには受診しましょう。



おたふくかぜの薬はありません。安静にして回復を待ちます。痛み止めや熱さましをつかいます。合併症がある場合は、それに対する治療となります。



### 家庭で気をつけること

- ・安静にしましょう。
- ・食事は酸っぱいものはさけて、消化の良いものを柔らかく調理して用意しましょう。ゼリーなどもよいでしょう。

### 予防接種

1歳から予防接種が受けられます。現在のところ任意接種です。どのタイミングで受けるかなどは、かかりつけ医にご相談ください。大人がかかると重症化することが多いので、かかったことがない人は、子どもと一緒に受けることをおすすめします。

### おたふくかぜに似ている別の病気

《反復性耳下腺炎》12歳くらいまでに多くみられ、おたふくかぜの流行に関係なく耳下腺の腫れを繰り返します。熱もほとんどなく、痛みも比較的少ないですが、症状だけで見分けるのはむずかしいです。

《化膿性耳下腺炎》発熱と、片側の耳下腺の腫れと痛みがみられます。赤く腫れることも多く、血液検査、抗生物質の治療が必要です。